羽村取水堰

羽村取水堰は全長約380mの投渡堰（なげわたしぜき）（左岸側）と固定堰（右岸側）で構成されています。多摩川上水の取水堰として、江戸時代に開削された歴史的にも有名な玉川上水の取水堰です。江戸の飲料水不足を解消するために、幕府の命により構築され、江戸時代から人々の生活を支えてきました。玉川上水の取水口でもあり、1654年（承応3）の玉川上水開削時に設置されました。設置当初は木製の堰でしたが、1911年（明治44）にコンクリート造りに改築されました。

羽村取水堰については『上水記*1』の「玉川上水水元絵図並諸枠図」と「玉川上水水元諸枠水門大サ役渡下蛇籠大サ水番人預リ道具書付」に1790年（寛政2）当時の状況が詳細に記録されています。羽村取水堰では蛇籠*2や投渡堰によって水を誘導し、取水口から取り込んでいます。

*1 上水記（じょうすいき）…幕府普請奉行上水方の石野遠江守とおとうみのかみ広道が1788年（天明8年）から1791年（寛政3年）にかけて編纂へんさんし、徳川幕府第11代将軍家斉ならびに老中松平定信に提出した江戸上水についての記録。
*2 蛇籠（じゃかご）…丸く細長く粗く編んだ籠の中に、石などを積めたもの。竹で編んだものは「竹蛇籠」。

下流から見た羽村取水堰

○出典：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所「多摩川リバーミュージアム」（TRM）多摩川の主な構造物【堰】